

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第1号

第1週(12月29日～1月4日)

発行年月日:平成16年(2004年) 1月 14日

発行 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

\* 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律が平成15年11月5日から施行されました。

### 1) 全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (1週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (1週)	全国 (1週)	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
1類感染症 <sup>(*)2)</sup>	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	1	1	7	7	459
	パラチフス	0	0	0	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	6	8	2635
4類感染症	エキノкокクス症	0	0	0	0	17
	オウム病	0	0	0	1	44
	ツツガムシ病	0	0	1	1	380
	レジオネラ症	0	0	0	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	3	504
	ウイルス性肝炎	0	0	0	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	1	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	0	3	8	949
	梅毒	0	0	1	2	493
	破傷風	0	0	0	1	69
	急性脳炎	0	0	0	0	98

(\*)1) 平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

(\*)2) 感染症法の改正により、重症急性呼吸器症候群(SARS)、痘そうが追加されました。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0.59	0.91	0.50	0	0.38	0.86	0	2.00	
RSウイルス感染症	0.06	0.14	0	0	0	0	0	0.50	
咽頭結膜熱	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	0.12	0.14	0.17	0	0	0.50	0	0	
感染性胃腸炎	2.30	3.00	5.17	1.00	0	5.00	0	0	
水痘	0.85	1.29	1.83	0	1.20	0.50	0	0	
手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0	
伝染性紅斑	0.18	0.14	0.83	0	0	0	0	0	
突発性発疹	0.24	0.71	0	0	0	0.25	0	1.00	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.09	0	0.50	0	0	0	0	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
定点当たり患者数

### 3) 今週のトピックス

#### 鳥インフルエンザに関するQ&A

(国立感染症研究所感染症情報センターのホームページより抜粋)

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(12月22日～12月28日)の患者報告数 506名よりかなり減少し、今週(12月29日～1月4日)の患者報告数は160名となっています。疾患別の定点当たり患者数を先週と比較すると、大部分の疾患において減少していますが、インフルエンザについてはわずかに増加しています。

**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数よりわずかに増加し0.59となっており、**今津保健所**管内の定点当たり患者数は2.0と多くなっています。

また、全国の発生動向調査情報によると、平成15年第52週(12月22日～12月28日)および平成16年第1週(12月29日～1月4日)の定点当たり患者数は、それぞれ1.79、1.21となり、流行の目安としている1.0を上回りましたので、**今年もインフルエンザ流行シーズンに入った**と考えられます。

#### インフルエンザに対する一般的な注意

- 1.外出時には、マスクを使用する。
- 2.帰宅時には手洗いとうがいを心がける。
- 3.睡眠を十分にとり、栄養に気を配る。
- 4.室内を適度な湿度に保つ。
- 5.人混みに出かけることをなるべく避ける。
- 6.早めに医療機関を受診する(受診する際には、マスクを着用する)。

インフルエンザの発生状況は下記のグラフのとおりです。

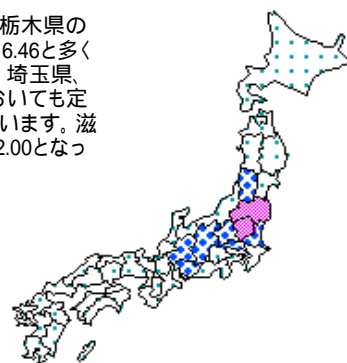
#### インフルエンザの発生状況(平成16年第1週)

保健所管内別発生状況(滋賀県)



全国の発生状況(平成16年第1週)

全国の発生状況を見ると、福島県、栃木県の定点当たり患者数は、それぞれ7.03、6.46と多くなっています。また、山形県、茨城県、埼玉県、群馬県、長野県、愛知県、岐阜県においても定点当たり患者数は2.32～3.99となっています。滋賀県においては、今津保健所管内で2.00となっています。



#### 鳥インフルエンザに関するQ&A

(国立感染症研究所感染症情報センターのホームページより抜粋)

##### Q1: 高病原性鳥インフルエンザとは、どのような病気ですか？

トリもA型インフルエンザウイルスの感染を受けますが、トリのウイルスはヒトのインフルエンザウイルスとは異なったウイルスです。鳥類のインフルエンザは「鳥インフルエンザ」と呼ばれ、このうちウイルスの感染を受けた鳥類が死亡し、全身症状などの特に強い病原性を示すものを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼びます。鶏、七面鳥、うずら等が感染すると、全身症状をおこし、神経症状(首曲がり、元気消失等)、呼吸器症状、消化器症状(下痢、食欲減退等)等が現れ、鳥類が大量に死亡することもまれではありません。

##### Q2: これまでにどのような国で発生していますか、

香港、中国、米国、オランダ、ドイツ、韓国、ベトナム等世界各地で発生しています。日本では、1925年以来発生はありませんでした。

##### Q3: これまでに人に感染した例はありますか？

1997年香港においてH5トリ型インフルエンザに18名が感染、6名が死亡していますが、ヒトからヒトへの感染はありませんでした。2003年2月、同じく香港においてH5トリ型インフルエンザウイルス感染が2名で確認され、うち1名は死亡していますが、その後の感染の拡大はありませんでした。2003年3-4月オランダではH7トリ型インフルエンザウイルス流行の際に数十人のヒトが結膜炎を、十数人インフルエンザ様症状を呈しました。1名が肺炎で死亡しており、家族内での感染がみられています。

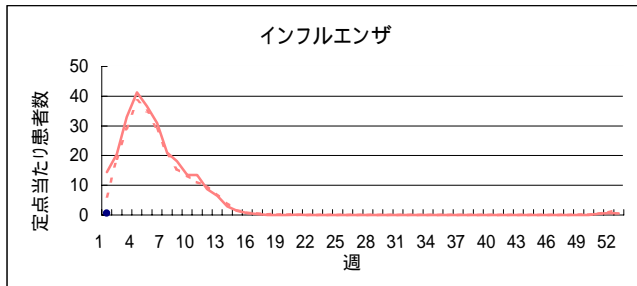
##### Q4: どのように人に感染するのですか？

これまでのところ、偶然にトリからヒトへの感染は見られたものの、ヒトからヒトへの感染はほとんど見られていません。またヒトがトリインフルエンザウイルスの感染を受けるのは、病鳥と近距離で接触した場合、またはそれらの内臓や排泄物に接触するなどした場合が多く、鶏肉や鶏卵からの感染の報告はありません。

\* 詳細については、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ

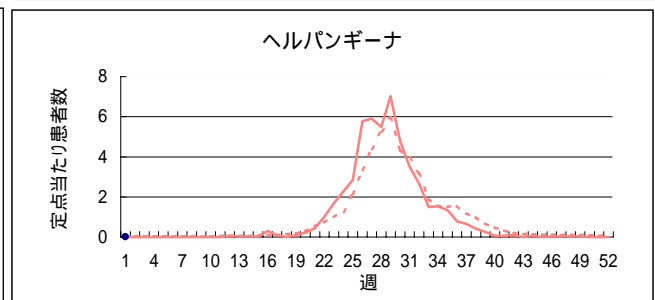
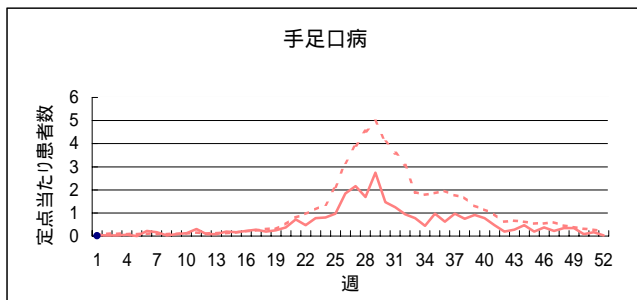
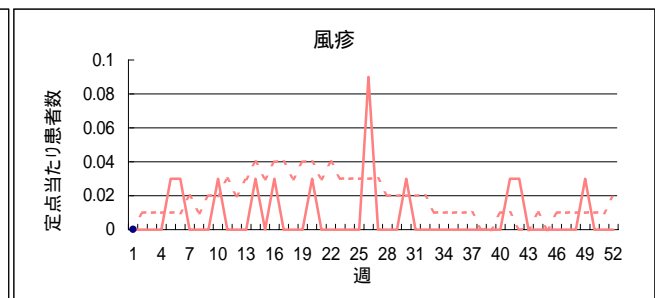
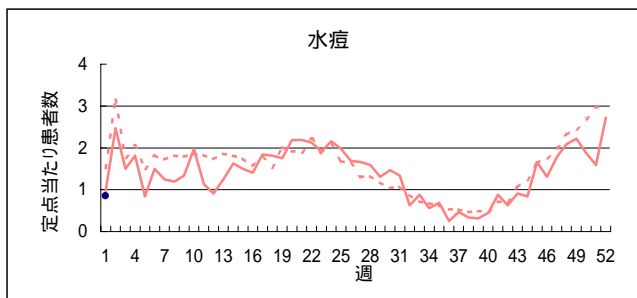
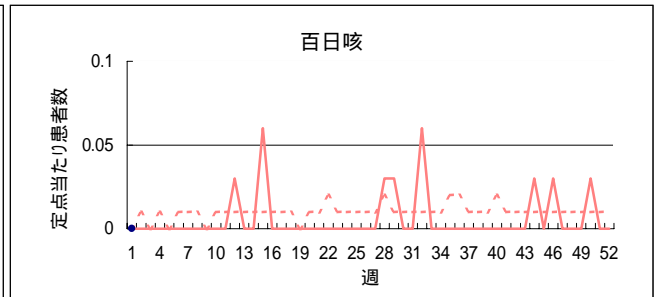
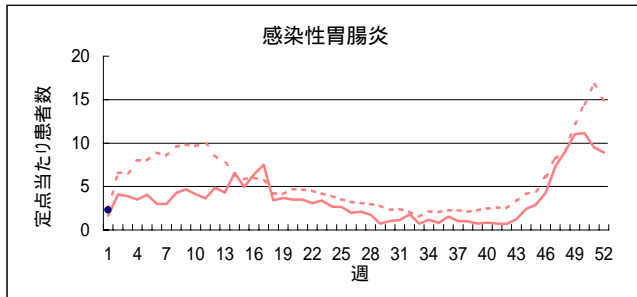
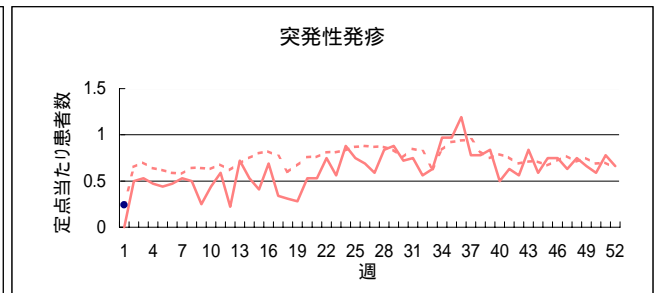
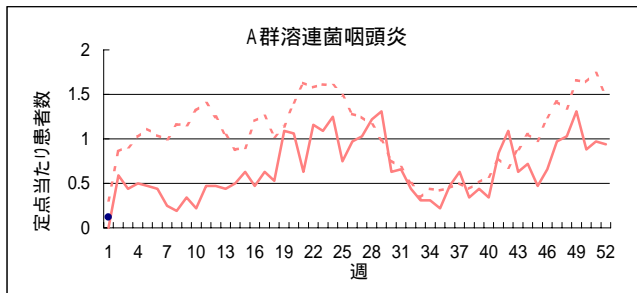
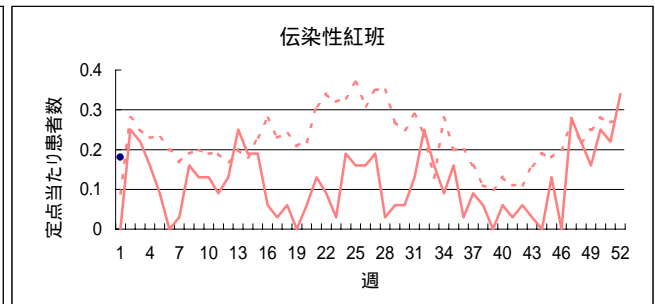
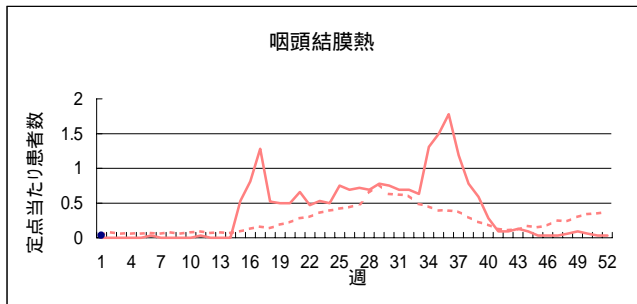
<http://idsc.nih.gov.jp/others/topics/flu/QA040113.html> に掲載されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週)



\* 平成16年1週のデータはグラフには、・として表示されています。

H15 { 滋賀 ————  
      全国 - - - - -  
H16 { 滋賀 ●——●  
      全国 .....



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週)

\* 平成16年1週のデータはグラフには、●として表示

H15

滋賀  
全国

H16

滋賀  
全国

